

現在の性教育の課題抽出を目的とした アンケート調査

藤嶋明子 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 機能展開医学系

産婦人科学講座 助教

前田恵理 秋田大学院医学系研究科医学専攻 衛生学・公衆衛生学講座 准教授

菊地麻里 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学講座・助教

水田圭 秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻准教授

菅原香織 秋田公立美術大学 美術教育センター准教授

【研究目的】

望まない妊娠、若年者の妊娠・中絶、減らない性感染症、性暴力・性虐待など、今まで我が国ではタブー視されていた内容が徐々に日の目を見るようになり、それらの原因として性と生殖の健康に関するヘルスリテラシーの不足が指摘されている。日本人は生殖に関する知識が先進国で最も乏しく (Bunting L, et al. 2013)、この原因として性教育の不充足が考えられた。

本研究では大学生・専門学生らに性教育についてのアンケート調査を行い、そこから我が国の性教育の課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】

Google formを使用したアンケート調査を行った。

本アンケートの周知方法としては、講義・実習時のリーフレット配布、LINE やメール等にて行なった。実際にリーフレットを配布したのは、秋田大学、秋田公立美術大学、秋田県立衛生看護学院、秋田しらかみ看護学院、中通高等看護学院、日本赤十字秋田看護大学、由利本荘看護学校、秋田ヘアビューティカレッジの8校であり、その他の施設ではメールやLINEにて周知を行なった。

アンケート内容は以下に示す通りである。

-
- あなたの現在の年齢を教えてください
 - 性別を選択してください
 - あなたが卒業した高校について教えてください (国立、公立、私立)
 - あなたの卒業した高校がある都道府県を教えてください。

(1) 性教育の授業はどのような内容でしたか? (複数回答可)

男女のからだの違いについて

いのちの大切さについて (受精の仕組みも含めて)

初経・月経について

精通・射精について

性交渉・妊娠について

避妊方法・人工妊娠中絶について

性感染症について

セルフプレジャー（マスターベーション・オナニー）について

わからない、受けた記憶がない

その他：

- (2) 性教育授業を受けた感想を教えてください

良かった

どちらとも言えない

良くなかった

受けていない・覚えていない

- (3) 「良かった」と答えた方へ

：性教育授業について当てはまるものを選択ください。（複数回答）

自分のことを好きになれた

両親に感謝するきっかけになった

その当時の自分の悩みを解決してくれた

具体的な内容だった

分かりやすかった

将来の自分に役立つと思った

その他：

- (3) 「どちらとも言えない」「良くなかった」と答えた方へ

：性教育授業について当てはまるものを選択ください。（複数回答）

具体的な内容ではなかった

よく分からなかった

その当時の自分の悩みを解決してくれなかった

将来の自分に役立つと思えなかった

知っていることばかりだった

知りたくない内容だった

性についてネガティブな印象を受けた

気分が悪くなった、嫌な気持ちになった

- (4) 「高校生までに知りたかった・教えて欲しかったこと」は何ですか？（複数回答可）

恋愛や健康な性的関係に関する知識

性的反応の仕組みや性行為（セックス）に関する知識

ジェンダー平等に関する知識（LGBTQ も含む）

性的虐待やデートDV（カップル間の暴力）などから自分を守るための知識

性的行動における意思決定・拒否方法などに関する知識
性感染症とその対策に関する科学的な知識
性に関する個別の悩みについての相談先などに関する情報
異性の生殖の仕組みに関する知識
セルフプレジャー（マスターベーション・オナニー）についての正しい知識
ポディーイメージに関する知識
妊娠・出産に関する正しい知識
避妊方法に関する知識
人工妊娠中絶に関する知識
仕事と家庭の両立に関する知識（産休育休制度など）
特にない
その他：

(5) 性教育は年に何回必要だと思いますか？

1年に4回以上
1年に2-3回
1年に1回
3年に1回
不必要

(6) どちらの授業方法が望ましいと思いますか？（外部講師とは産婦人科医、小児科医、泌尿器科医、助産師、保健師、その他学校職員以外の職種を指します）

外部講師・男女一緒
外部講師・男女別
学校の教師（保健室の先生も含む）・男女一緒
学校の教師（保健室の先生も含む）・男女別
どちらでも良い

(7) 高校生までに性について困った（知りたい）時どのように対応（検索・相談）しましたか？（複数回答可）

友人
付き合っている相手
母親
父親
兄弟姉妹
学校教師
保健室の先生
医師（産婦人科医など）
インターネット・SNS

雑誌・漫画・本

その他：

(8) 性教育についてご意見ありましたら、ぜひご記入ください。

(自分が実際に知識がなくて困ったこと、自分で調べた内容、性教育を受けて嫌な思いをした経験、などなんでも構いません)

(9) 将来子どもを持ちたいと思いますか？

子どもを持ちたくない

子どもを持ちたい

考えたことがない

すでに子どもがいる

その他：

(10) あなたのライフプランやライフスタイル(生活習慣など)が、生まれてくる子どもの健康に影響を与える可能性があることを知っていますか？

知らない

聞いたことはある

知っている

(11) 「プレコンセプションケア」(妊娠前からのヘルスケア)を知っていますか？

知らない

聞いたことはある

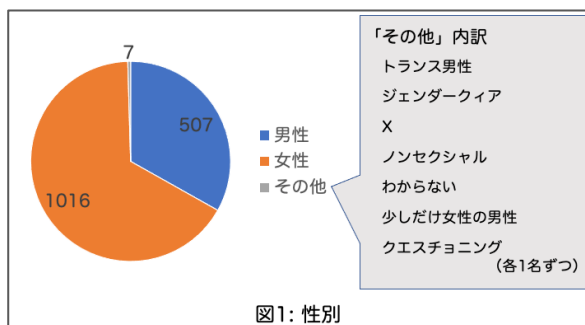
知っている

本研究は秋田大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認および研究科長の実施許可を得て行なった(承認番号 2909)。

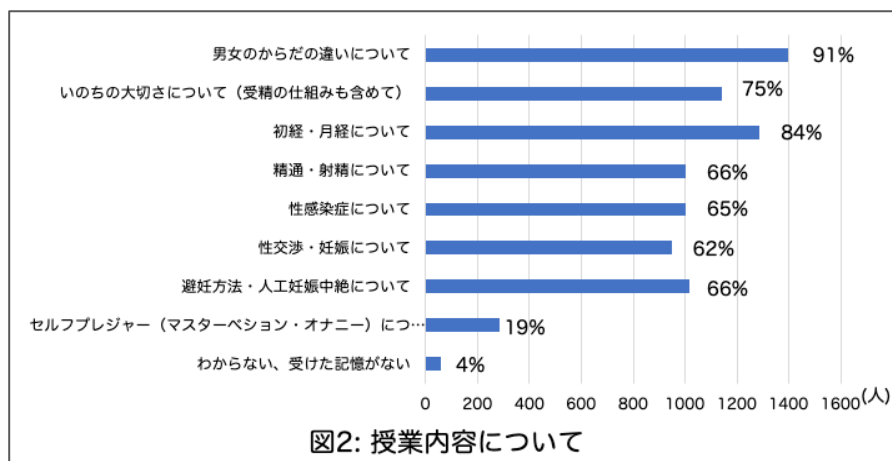
【結果】

令和5年2月9日までの結果を集計した。秋田県内大学・専門学校生 1138人(うち研究同意なし8人)、秋田県外大学・専門学校生 402人(うち研究同意なし2人)の回答を得て、研究同意の得られた計1530人の結果を解析した。

性別は男性507人(33.2%)、女性1016人(66.3%)、その他7人(0.46%) (トランス男性、ジェンダークィア、X、ノンセクシャル、わからない、少しだけ女性の男性、クエスチョニングが各1名ずつ)だった(図1)。看護学生への周知が多かったためか女性が多くなった。LGBTQなどのいわゆる性的マイノリティは13人に1人、約8%前後存在するとされているが、本研究結果では下回る数値となった。



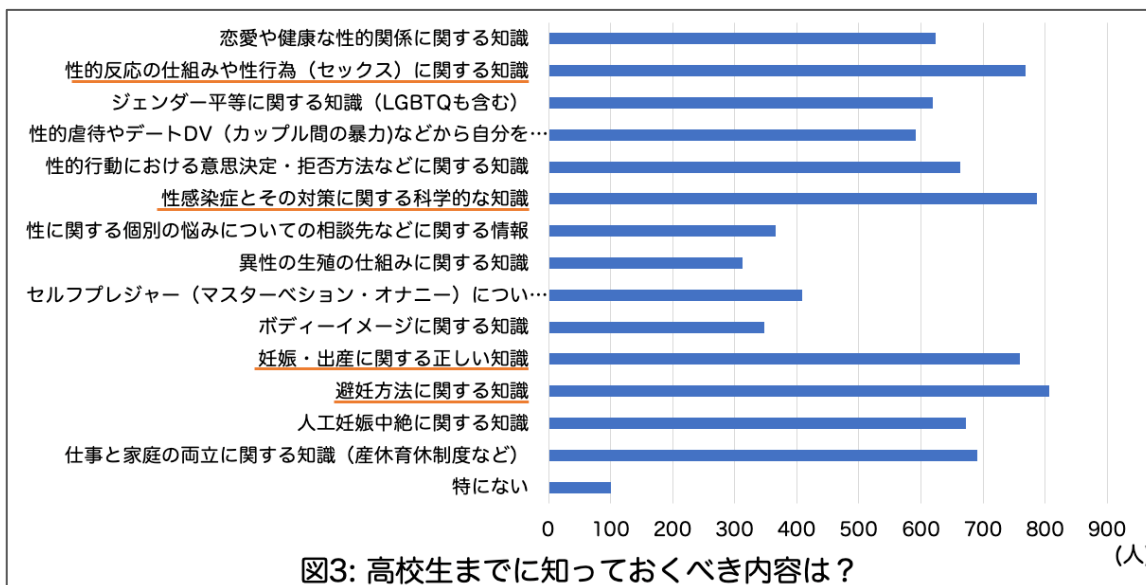
年齢は 16 歳から 36 歳以上まで幅広く存在し、中央値は 21 [20-23] 歳であった (図 2)。性教育の内容は保健の指導指針に取り組みられている二次性徴について (「男女の



からだの違いについて」「初経・月経について」「精通・射精について」と性感染症については 6 割以上の学生が授業を受けていた。指導指針からは外されている性交渉・避妊・人工妊娠中絶についても 6 割以上が授業を受けており、これらは保健の授業とは別として「性教育」講座による内容と考えられた。セルフプレジャー (マスターベーション・オナニー) についての教育は 19% と少ない結果になった。

性教育を受けた感想としては「良かった」515 人 (33.7%)、「どちらとも言えない」786 人 (51.4%)、「良くなかった」122 人 (8.0%)、「受けていない・覚えていない」107 人 (7.0%) であった。

高校生までに知っておくべき内容としては、「性的反応の仕組みや性行為に関する知識」「性感染症とその対策に関する科学的な知識」「妊娠・出産に関する正しい知識」「避妊方法に関する知識」が多く挙げられた。これらの内、性感染症以外は指導指針から外されており、課外授業でのみ知り得ることが可能な内容である。さらに、いわゆる「性教育」の内容だけではなく、ジェンダー平等などの人権的な内容、性暴力や性的同意を含んだ健康な関係の築



き方、さらには妊娠・育児に対する社会的・金銭的な支援についても回答が多く、幅広い教育を望む声が多かった。

求める性教育講座の手法については「外部講師・男女一緒」609人(53.9%)、「外部講師・男女別」592人(52.4%)、「学校の教師・男女一緒」66人(5.8%)「学校の教師・男女別」86人(7.6%)、「どちらでも良い」177人(15.6%)であった。どちらでも良いについては、デジタル教材やオンライン授業を活用し1人で授業を受けるといった意見も見られた。回数については「1年に4回以上」351人

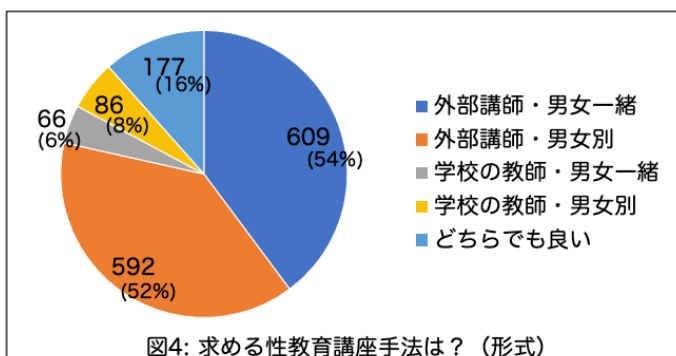


図4: 求める性教育講座手法は？ (形式)

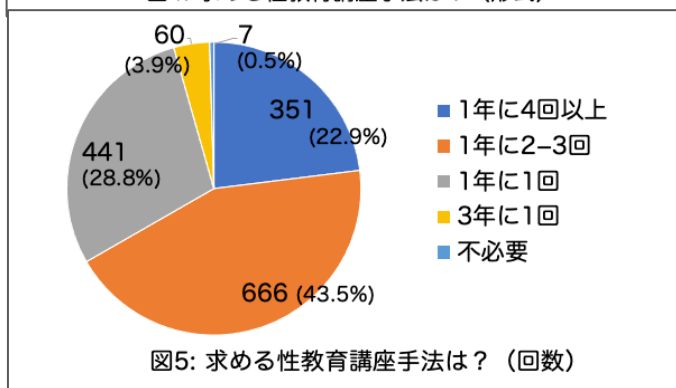


図5: 求める性教育講座手法は？ (回数)

(22.9%)、「1年に2-3回」669人(43.7%)、「1年に1回」443人(29.0%)、「3年に1回」60人(3.9%)、「不必要」7人(0.5%)であった。秋田県の現状では外部講師による性教育は3年に1回であり、大多数は現在よりは多い回数を望んでいた。

高校生までに性について調べる方法・相談先としては、インターネット・SNSが1019人(66.6%)と最も多く、次いで友人647人(42.3%)、母親304人(19.9%)であった。

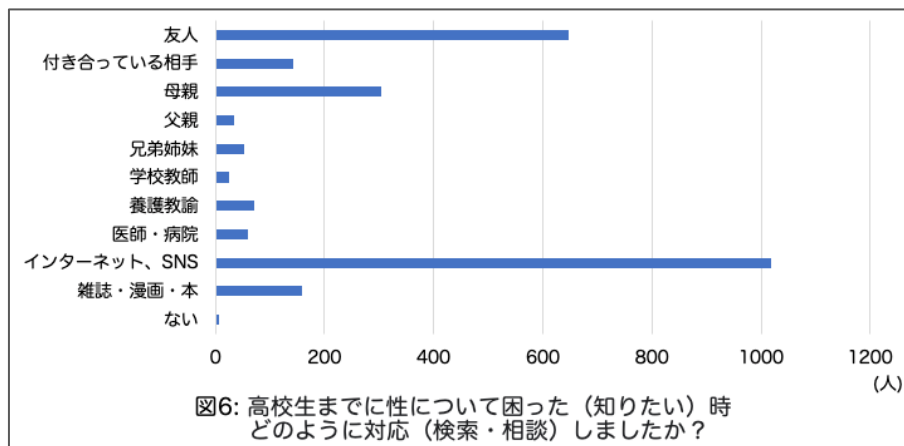


図6: 高校生までに性について困った(知りたい)時どのように対応(検索・相談)しましたか？

将来子どもを持ちたいかについては「子どもを持ちたい」

1117人(73.0%)、「子どもを持ちたくない」158人(10.3%)、「考えたことがない」181人(11.8%)、「すでに子どもがいる」15人(1.0%)、「その他」59人(3.9%)であった。その他には、出産育児について経済的・社会的な不安を抱く声が見られた。将来子どもを持つことについて、全国に比し、秋田県の大学に通う学生は子どもを持ちたいとの回答が低く、子どもを持ちたくないとの意見が多くなった。

自由記載の欄には、性についての情報をもっとオープン・ポジティブにしてほしい、男女

ともに同じ内容を教育して欲しいという声が多かった。

【考察】

我が国の性教育は年に1回程度、外部講師等からの短時間の授業のみであり、家庭や学校教育の中ではほとんど触れられてきていない実情がある。一方、現代社会では小学生からスマホやインターネット環境の中で成長し、容易に性的な動画を含めた大人向けのポルノ情報を手に入れ、SNS等で出会いを求めることが可能である。自らを守る正しい知識を持たずして、社会に放り出され危険な体験に遭遇する事件が後を立たない。本研究結果からも、実際に性についての知識がないことで悩んでいた、正しい知識を得る術がなかった、との声が多かった。さらに、性については周囲の人に相談できず、インターネットやSNSで調べる人が最多であったことから、性について聞くことは悪いこと・恥ずかしいこと、という社会全体の価値観が若い世代の人たちをより孤立化させ、誰にも相談できずにいる現状を作っていることが示唆された。

性教育は予定外の妊娠、性感染症など「性に関わる危険性」について教えることが全てではない。性教育は健康的かつ安全な人間関係の構築、ジェンダー平等、人権などを含めた、セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツ (sexual and reproductive health and rights: SRHR) の向上を目指し、個人及び社会全体の幸福を目指した内容であるべきである。

理想的な性教育とは UNESCO の包括的性教育に順じて、二次性徴から分娩までの性につい

での知識を通して人権について学ぶ人権教育である。しかし我が国では、中学校においては「妊娠の経過は取り扱わないものとする」と明記され、「性交」という文言の記載も禁じられている。そのため受精については記載があるものの、性交渉や妊娠・分娩については教えてはならず、図6の示す通り、性のあるべき経過が不自然に分断されている。そのため、人権や健康的な男女関

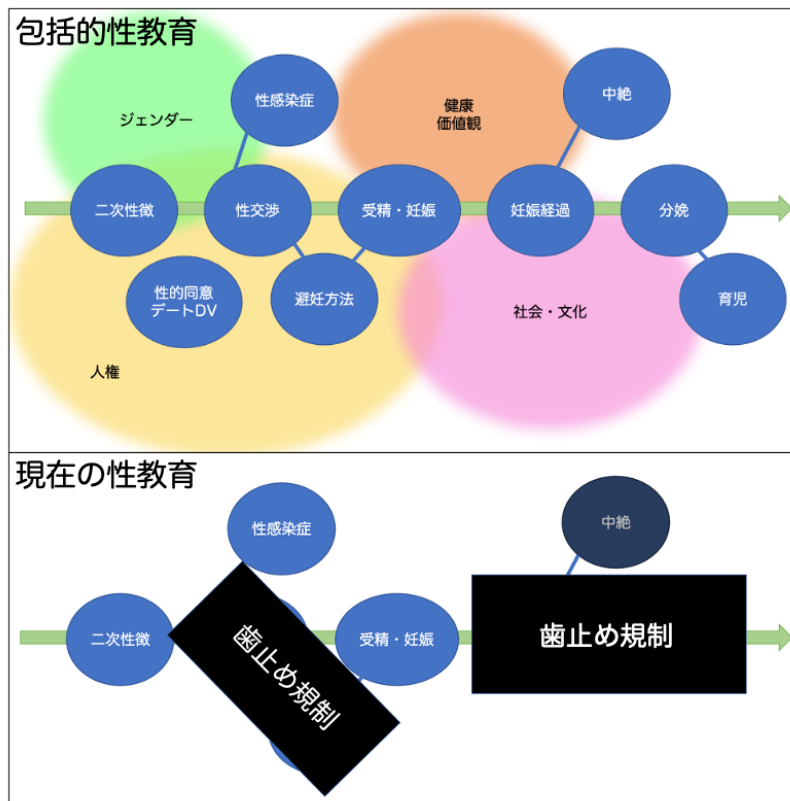


図6: 包括的性教育の現在の性教育

係について知ることができない。我が国の教育についての取り組みはいずれも若者達の声ではなく、教育者や医療者主導でなされているものであり、学習者らが中心にアプローチした性教育手法はほとんどなされていない。「性」というテーマはデリケートで、指導者→学習者という上下関係の一方的なアプローチのみでは不適切なテーマだからこそ、若者たちが何を知りたかったのか、より若い世代に何を伝えたいかという情報は極めて有用である。

本研究で得られた結果は、我が国の性教育の課題抽出という点で極めて有用である。1500人という大規模な性教育についてのアンケートは国内でも初めての報告となる。本結果は、「大学生から伝えたい性教育」として今後の小学校～高校生への性教育として還元する。